

りん酸吸収係数



土壌が固定するりん酸量の指標

土壌がりん酸を吸収(固定)する程度を示す数値です。りん酸吸収係数が1500以上の土壌では、仮にりん酸を施用しても、その多くが土壌に吸収されてしまいます。

日本は火山灰由来の土壌(黒ボク土などの火山灰土壌)が多く、これらの土壌はりん酸吸収係数が2000を超えているため、りん酸質肥料を多く施用しなければなりません。

◆目標

りん酸吸収係数は土壌の特性を示した数値であり、改良するのは非常に困難です。したがって、改良目標はありません。

◆改善のポイント

表-7は、りん酸吸収係数ごとの施用倍率(どのくらい多く施用しなくてはならないか)を示したものです。このうち1500以上のりん酸吸収係数が高い土壌では、特にりん酸を多めに施用しなければなりません。

最近はりん酸質肥料の長年にわたる多施用により、りん酸吸収係数が高くてでも可給態りん酸が多い土壌が増えています。その場合は必ずしもりん酸を多めに施肥する必要はありません。したがって、まずは可給態りん酸を測定し、無駄のない施肥を心がけることが必要です。

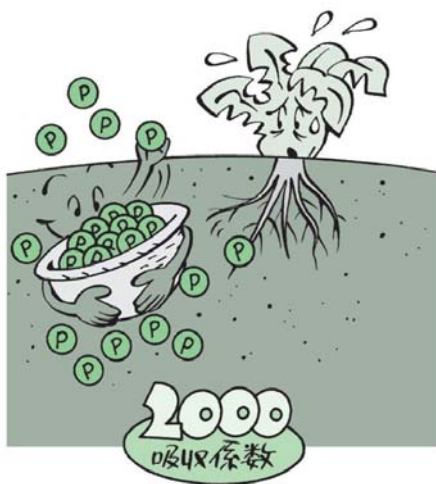


表-7 りん酸必要量とりん酸吸収係数との関係

りん酸吸収係数	不足りん酸1mg当たり りん酸施用量 (mg/100g 乾土)	作物のりん酸の 利用率の目安(%)	該当する主な土壌
2000以上	12	6～10	腐植質火山灰土壌
2000～1500	8	10～15	火山灰土壌
1500～700	6	15～20	こう積土壌
700以下	4	20～30	沖積土壌